

# 第1章 教育の現状と課題

## I 教育を取り巻く社会環境

### 1. 人口の減少、少子高齢化の進展

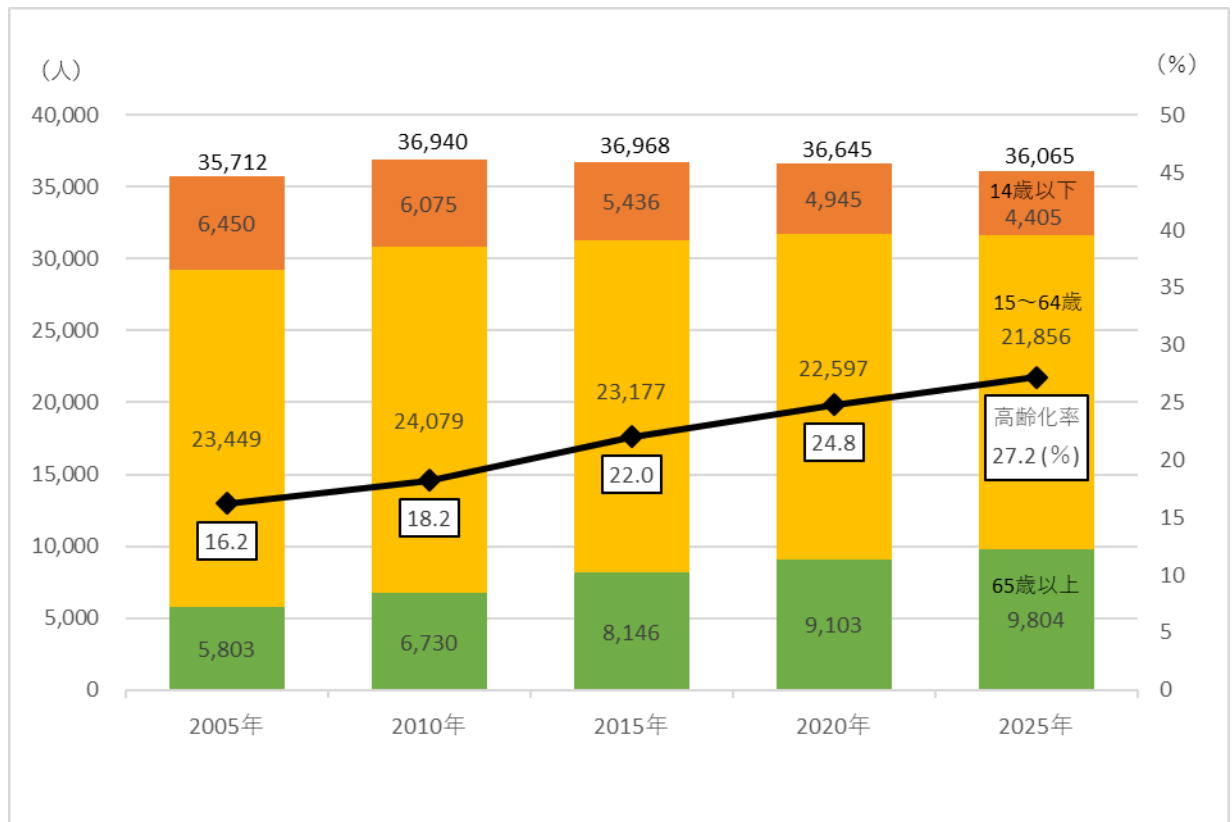
わが国は、出生率の低下などによって、急速に少子高齢化が進んでいることから、今後、人口が減少に転じていく社会となっていくことが予測されています。本町においても、今後は人口が減少に転じ、高齢人口が増加することが予想されます。

少子化が進む中では、個人の能力を尊重しながらも、子ども同士が交流する機会や社会性を培う機会の場を増やし、これからの社会を生き抜く力やコミュニケーション能力をはぐくみながら、家庭・学校・地域が連携し社会を支えていくことが重要となります。

また、高齢化社会においては、生涯にわたって充実した生活を送るために、生涯学習の機会を充実すると同時に、知識と文化の継承やボランティア活動など高齢者の活躍の場を創っていくことが必要となります。若年齢層から高年齢層まで世代を超えた交流を促し、時代の変化に対応した社会環境を形成しなければなりません。

少子高齢化社会が進む中、家庭・学校・地域が連携し、生涯にわたり、さまざまな分野で、それぞれの役割や能力を発揮していく地域力が求められています。

【津幡町における人口の推移と推計】



資料：2005年、2010年、2015年 国勢調査  
2020年、2025年 国立社会保障・人口問題研究所『日本の地域別将来推計人口』（2018年3月1日推計）

## **2. 価値観やライフスタイルの多様化**

人々の価値観は、物の豊かさから心の豊かさへと変化し、自身の個性や生き方を重視する方向へと変わってきています。しかし、その一方で、本来、地域がもつ社会教育力が失われつつあるなどの課題が生まれています。

このような状況に対応するためには、行政の取組だけでなく、町民が主体的に参加し、町民と行政が協働して地域の課題に対応していくことが必要です。

## **3. 高度情報化社会の進展**

技術の飛躍的な発展により、産業・経済・行政・教育・医療・福祉・家庭など、あらゆる分野で情報通信技術の活用が急速に進んでいます。情報通信基盤の充実に加え、個人情報や安全管理や大量の情報を取捨選択し、利活用できる能力をもった人材を育成していく教育がより重要になってきます。

## **4. グローバル化の進展**

グローバル化が急速に進展する中においては、多文化共生の取組が重要となってきます。多文化共生の取組では、コミュニケーション能力だけでなく自国の伝統と文化や地域に関する知識、世界共通のルールなど、さまざまな知識や能力を取得し、国際的な視野をもつことが求められています。

## **5. 地球環境問題への対応、循環型社会への転換**

社会システムやライフスタイルが変化したことにより、豊かな生活を享受できるようになりました。しかし一方で、大量生産、大量消費型の経済活動や生活様式は、地球温暖化やオゾン層の破壊など地球規模の環境問題を引き起こしています。

町民一人一人が環境問題について地球的視野をもち、ゴミ減量化やリサイクル、省エネルギー、省資源の問題などについて身近なところから行動を進め、社会全体をとおして循環型社会を構築していくような社会環境づくりが必要です。

## **6. 地方分権の進展**

平成12年にいわゆる地方分権一括法が施行され、地方への権限移譲の取組が進んでいます。こうした中、それぞれの歴史や文化、自然条件など、市町村がもつ特有の資源を最大限に生かし、創意工夫により地域づくりを進め、さまざまな行政課題に自主的・自律的に取り組むことが求められています。

教育の分野においても、学校のみならず地域に存在する教育資源を十分に生かしながら、効果的に施策を実施する必要があります。

## Ⅱ 津幡町における教育の現状を踏まえた施策の方向性

### 1. 子どもたちの現状について

#### (1) 児童生徒の学力

本町の小・中学生の学力（平成 25 年度から 31 年度までの全国学力・学習状況調査における平均正答率）は、全国平均を上回り、県平均と同程度となっています。調査結果からは、基礎的・基本的な知識・技能は概ね身に付いていることがわかります。しかしながら、活用に関する力は、まだ十分とはいえないことから、今後も指導法の工夫改善等に努め、さらに学力向上をはかっていかなければなりません。

また、児童生徒生活状況調査から家庭で勉強する時間が2時間以上の児童生徒の割合が半数以下であることを踏まえ、家庭における学習習慣の定着を一層推進していく必要があります。

#### (2) 子どもの心と体

社会が多様化し、変化する中で、子どもを取り巻く環境も大きく変化し、人間関係、生活習慣、健康・体力低下等、子どもの心や体に関するさまざまな危ぐすべき課題が生じています。

このような中でも、本町の教育相談件数は全体的に減少傾向にあります。これは、学校が関係機関と連携を図るなど、さまざまな取組を行っていることが要因として挙げられます。しかしながら、一方で、生活習慣の乱れから、子どもの健康状態や食生活の乱れ、運動習慣の低下が懸念されています。

子どもたちの健やかな心と体の成長を助長するために、食に関する教育や規則正しい生活習慣、運動習慣の定着の促進などさまざまな取組を行い、豊かな心と体をはぐくむ環境づくりが重要です。

### 2. 地域における社会教育の現状について

#### (1) 家庭の教育力

家庭教育は、全ての教育の出発点であり、「基本的な生活習慣」「豊かな情操」「社会のマナー」などを身に付ける上で重要な役割を担っています。しかし、家族構成の変化や地域とのつながりの希薄化といった社会の変化を背景に「家庭の教育力」が低下の傾向にあります。

また、子どもの規範意識、社会性の希薄化や主体性の低下も指摘されており、幼稚園・保育園等・学校・地域が連携し、地域の実情に応じた学習機会の創出や体験活動をととした心豊かな子どもの育成に努める必要があります。

## (2) 地域教育力

町民にとって最も身近な学習拠点である地区公民館、文化会館「シグナス」において、生涯学習活動は盛んに行われています。町民が生涯学習活動の中で学んだ知識や技術を個人だけのものにする事なく、学んだ成果を地域に生かす施策を推進する必要があります。

地区公民館においては、生涯学習の拠点という役割だけでなく、社会教育推進の大きな役割を担っています。このことから、地域における課題解決に向け、組織的な取組を推進していく必要があります。

また、スポーツ・レクリエーション活動においては、町民の健康増進や体力づくり、趣味等のためだけでなく、豊かで活力ある地域社会の形成に重要な役割を担っています。幅広い年代層を対象にしたスポーツ活動を展開して、地域間交流・世代間交流を図っていく必要があります。